基本施策 Ⅱ

生涯学習

～生涯を通じて学び・育ち、誰もが活躍できるまちの実現～

1 学び・育ち

Ⅱ-1-(1) 生き抜く力を育む学校教育の推進 …… 87

Ⅱ-1-(2) 安全・安心で快適に学べる教育環境の充実 …… 91

Ⅱ-1-(3) 地域による次世代人材の育成の促進 …… 93

Ⅱ-1-(4) まちへの誇りや愛着につながるものづくり学習の推進 … 95

Ⅱ-1-(5) 高齢者が活躍できる環境の充実 …… 99

Ⅱ-1-(6) 女性が活躍できる環境の充実 …… 101

2 スポーツ

Ⅱ-2-(1) スポーツ資源を生かした活力ある社会の実現 … 105

3 歴史・文化

Ⅱ-3-(1) 歴史や文化財の継承と魅力の発信 …… 109

Ⅱ-3-(2) 文化芸術を生かしたまちの魅力づくりの推進 … 113

施策体系

小分野	施策名	施策の柱
1 学び・育ち	(1) 生き抜く力を育む学校教育の推進	柱① 学びのつながりや地域とのつながりを重視した教育の推進
		柱② 確かな学力を育む教育の推進
		柱③ 豊かな人間性を育む教育の推進
		柱④ たくましく生きるための健康・体力を育む教育の推進
	(2) 安全・安心で快適に学べる教育環境の充実	柱① 学校施設の環境の充実と整備の推進
		柱② 給食調理環境の整備
	(3) 地域による次世代人材の育成の促進	柱① 小・中学生が主体的に活動できる機会の充実
		柱② 高校生・大学生の社会参加活動の促進
		柱③ 自立に困難を抱える若者の支援
	(4) まちへの誇りや愛着につながるものづくり学習の推進	柱① ものづくりや科学に興味・関心を高める機会の充実
		柱② 高度なものづくりや科学を学ぶ機会の充実
	(5) 高齢者が活躍できる環境の充実	柱① 高齢者の社会や地域での活躍支援
		柱② 高齢者への多様な就業機会の提供
	(6) 女性が活躍できる環境の充実	柱① ワーク・ライフ・バランスの推進
		柱② 女性の就労・活動意識確立の支援強化
		柱③ 若者の男女共同参画への理解促進に向けた取組の強化
2 スポーツ	(1) スポーツ資源を生かした活力ある社会の実現	柱① スポーツを「する」機会の拡充
		柱② スポーツを「楽しむ」風土の醸成
		柱③ スポーツを「支える」体制強化と人材の育成・活用
3 歴史・文化	(1) 歴史や文化財の継承と魅力の発信	柱① 歴史・文化財の継承・魅力発信のための基盤・機会の充実
		柱② 市民力・地域力を生かした歴史・文化財の継承の促進
		柱③ 歴史的な町並みや史跡等を生かしたまちづくり
	(2) 文化芸術を生かしたまちの魅力づくりの推進	柱① 文化芸術に触れる機会の充実
		柱② 文化芸術活動を担う人材の育成
		柱③ 文化施設の機能・価値の向上

Ⅱ-1-(1) 生き抜く力を育む学校教育の推進

めざす姿

地域ぐるみでの学び合いを通じて、生き抜く力を備えた児童生徒が育っている。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合 ①小学生、②中学生【出典:全国学力・学習状況調査】	①74.5% ②71.8% (2019年度)	↑

施策の背景

●国が定めている学習指導要領では、新たな時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力として「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵(かん)養」を掲げています。

●本市の学校教育では、生き抜く力※1を育むことをキーワードとして、知・徳・体のバランスのとれた子どもたちの育成に取り組んでおり、主体的・対話的で深い学びの充実をめざした授業づくりに向けてICTを活用した新しい授業スタイルを研究していく必要があります。

●また、全ての教育を学校だけで完結するのではなく、学校と家庭、地域が連携・共働しながら子どもたちを育む社会に開かれた教育課程を推進することを重視しています。

●本市では、全ての小・中学校に地域学校共働本部を設置、全中学校区をコミュニティ・スクールとして指定し、地域ぐるみの教育を推進する仕組みが整いましたが、今後は、学校と家庭、地域の更なる連携の強化、充実を図る必要があります。

●いじめについては、認知件数が増加傾向にあり、要因や状況がますます多様化・複雑化しており、更なる体制整備、強化を図る必要があります。

●小・中学生の体力・運動能力は、体力テストの結果において多くの種目が全国平均を下回っており、子どもの体力向上に向けた取組を推進する必要があります。

用語解説
※1 生き抜く力：社会が激しく変化する中で自立と共働を図るための能動的・主体的な力

施策の柱

柱① 学びのつながりや地域とのつながりを重視した教育の推進

概　要	こども園・幼稚園、小・中学校、高等学校とのつながりや地域とのつながりをより深めるために、人材の確保・育成を推進し、子どもたちの学校や自分の住む地域・豊田市を愛する気持ちを育成します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	学校の活動にボランティアとして参加した人数	5,280人 (2019年度)	5,500人以上 (2024年度)

柱② 確かな学力を育む教育の推進

概　要	きめ細やかな教育や分かる・深まる学習を推進するため、少人数指導やICTを活用した授業づくりに取り組みます。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	児童生徒がICTを活用し、一人ひとりに応じた学習や協働的な学習に取り組めていると回答した学校の割合 ①小学校、②中学校 【出典:学校における教育の情報化の実態に関する調査】	市平均 ①62.4% ②58.4% 全国平均 ①70.6% ②66.1% (2019年度)	全国平均以上 (2024年度)

柱③ 豊かな人間性を育む教育の推進

概　要	障がい、いじめ、不登校、日本語教育が必要な児童生徒への支援を充実させるため、相談やサポート体制の強化に取り組みます。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合 ①小学生、②中学生 【出典:教科等に対する意識調査】	①83.0% ②80.0% (2019年度)	①86.0% ②81.0% (2024年度)

柱④ たくましく生きるための健康・体力を育む教育の推進

概　要	子どもたちの健やかな体を育てるため、子どもの体力向上プログラムの充実や部活動の運営支援に取り組みます。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 ①小学校、②中学校 【出典：全国体力、運動能力、運動習慣等調査】	①90.9% ②84.0% （2019年度）	①93.0% ②86.0% （2024年度）

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
①	（再掲）地域学校共働本部推進事業	地域と学校が連携・共働し、地域全体で子どもの成長を支えていく組織の活動推進
	（再掲）コミュニティ・スクール推進事業	中学校区の単位で小・中学校の連携及び地域ぐるみの教育を効果的に実施するコミュニティ・スクールを推進
②	きめ細かな教育推進事業	豊田市独自の少人数学級と非常勤講師・補助員等の配置により、きめ細かな教育を推進
	（再掲）ICT活用・整備推進事業	ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を推進するための学習スタイルの構築及びICT環境の整備を推進
③	（再掲）いじめ・不登校対策事業	いじめの防止や対応、不登校児童生徒の自立支援などに関する各種対策事業を実施
	特別支援教育の推進事業	身近な地域での特別支援教育に関する諸問題を解決するために、ブロックサポート体制を確立
	外国人児童生徒等教育事業	外国人児童生徒等の小・中学校への適応を進めるため、日本語指導や学習相談、支援等を実施
④	子どもの体力向上推進事業	児童生徒の体力向上及び運動好きな児童生徒を育てるために、各校の現状に合わせた「体力向上1校1実践」の取組を実施

地域学校共働本部ミシンボランティア

学習用タブレットの活用の様子

子どもの体力向上推進事業

Ⅱ-1-(2) 安全・安心で快適に学べる教育環境の充実

めざす姿

児童生徒が安全・安心で快適に学べる環境が整っている。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
保全改修を実施した学校数（年度末時点）	70校（2019年度）	↑
長寿命化改修を実施した学校数（年度末時点）	―	↑
トイレ再整備を実施した箇所数（年度末時点）	433か所（2019年度）	↑
将来、教室不足が発生する可能性のある学校数（年度末時点）	2校（2019年度）	↓
学校給食衛生管理基準改定以後に整備した給食センター数（年度末時点）	2施設（2019年度）	↑
食物アレルギーがある児童生徒でも安全に給食を食べられる学校数（年度末時点）	55校（2019年度）	↑

施策の背景

●本市の学校施設は、建設から30年以上経過している建物が大半を占めており、引き続き、施設の老朽化対策を行う必要があります。

●また、学校施設は、国が示す使用年数80年を目標に、施設の状態に応じ、長期にわたって使い続けるため、新たに長寿命化改修を実施する必要があります。

●社会環境が変化する中、防災機能強化やトイレの洋式化、地域との連携など、学校施設に対する多様なニーズへの対応が求められています。

●過疎化・少子化が進み児童生徒数が減少している学校がある一方、宅地開発等により児童生徒数が増加する学校があり、教室不足が生じないよう計画的に教室を整備することが必要です。

●給食センターについては、学校給食衛生管理基準に基づき、施設設備の改修を行っていますが、基準を満たすためには老朽化に伴う改修時に合わせて施設等の更新が必要なセンターもあります。

●また、アレルギー対応の給食や特別支援学校における給食など、社会環境の変化に伴う新たなニーズに対応できる調理環境の整備が求められています。

施策の柱

柱① 学校施設の環境の充実と整備の推進

概　要	安全・安心で快適な教育環境を提供するため、施設の老朽化への対応や、社会環境の変化に伴う新たなニーズに対応した整備を進めます。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	保全改修を実施した学校数（4年累計）	―	15校（2021～2024年度）
	長寿命化改修を実施した学校数（4年累計）	―	3校（2021～2024年度）
	トイレ再整備を実施した箇所数（4年累計）	―	252か所（2021～2024年度）
	教室不足への対応を実施した学校数（4年累計）	―	2校（2021～2024年度）

柱② 給食調理環境の整備

概　要	子どもたちに安全・安心な給食を提供するため、衛生管理の徹底や食物アレルギーに対応できる環境整備を進めます。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	給食センター施設の基本計画の策定（4年累計）	―	2施設（2021～2024年度）

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
①	学校施設長寿命化改修事業	建物の目標使用年数を80年とし、学校施設の効果的な改修を計画的に行い、長寿命化による施設管理を実施
	学校トイレ再整備事業	快適な教育環境を確保するため、トイレの洋式化を実施
	校舎増築事業（中山小学校、朝日丘中学校ほか）	宅地開発等により児童生徒数が増加する学校に対して、教室不足が生じないよう計画的に教室を整備

Ⅱ-1-(3) 地域による次世代人材の育成の促進

めざす姿

地域や社会で活躍できる次世代の人材が育っている。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
地域の行事や活動(ボランティア活動、地域のお祭り、ボーイ・ガールスカウト)に参加している割合 ①小学校低学年、②小学校高学年、③中学生、④高校生、⑤青少年(19歳～29歳)【出典:豊田市子ども・子育てに関する市民意向調査、豊田市子ども・青少年の生活と意識に関する調査】	①84.1% ②86.4% ③72.4% ④38.1% ⑤18.4% (2018年度)	↑
１年以内に、小・中学校の活動又は児童生徒とともに行う地域の活動に参加した市民の割合【出典:市民意識調査】	28.6% (2019年度)	↑

施策の背景

●本市では、子どもの健全な育成に向けて、子どもたちに対する様々な学びの場や地域における活動の場、挑戦する機会を提供し、子どもたちの育ちを支援しています。
●子ども会やジュニアクラブへの参加は減少傾向にあり、高校生以上になると行動範囲が広がることなどから、子どもや若者が地域との関わりを持つ機会が減少しています。
●こうした中、今後ますます複雑化していく社会の中で生き抜くためには、一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力や、疑問を持ち考え抜く力、多様な人と一緒に目標に向けて協力する力が求められます。
●次代を担う人材の育成には、今後、更に地域や社会とのつながりを強め、年齢や成長段階に応じた環境、教育、活動、活躍の機会の充実が必要です。
●また、ニート・ひきこもりなど自立に困難を抱える若者については、様々な要因が複雑に絡み合っているため、就労や福祉、医療、教育などの多様な関係機関が連携し、社会の一員として活躍できるよう支援が必要です。

施策の柱

柱① 小・中学生が主体的に活動できる機会の充実

概　要	生き抜く力を育むため、地域における活動の場や挑戦する機会を充実します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	生き抜く力を育む講座※1に参加した小・中学生の人数(市支援分)	1,731人 (2019年度)	1,850人 (2024年度)

柱② 高校生・大学生の社会参加活動の促進

概　要	地域社会の担い手として高校生・大学生が成長するため、地域や社会との交流の機会や活動のきっかけづくりを行います。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	地域・社会活動に参加した高校生・大学生の延べ人数(市支援分)	2,732人 (2019年度)	3,200人 (2024年度)

柱③ 自立に困難を抱える若者の支援

概　要	自立に困難を抱える若者が就労や社会参加などを行うため、関係機関との連携による包括的な体制で自立に向けた支援を行います。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	若者サポートステーション登録者(年度末時点)	184人 (2019年度)	215人 (2024年度)
	適切な機関への紹介や就職等につながった人数(市支援分)	53人 (2019年度)	65人 (2024年度)

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
③	若者サポートステーション事業	自立に困難を抱える若者が就労や社会参加などを行うため、関係機関による包括的な体制で自立に向けた支援を実施

用語解説
※1　生き抜く力を育む講座：小・中学生等を対象とした、発想力や決める力を身に付けるための講座

Ⅱ-1-(4) まちへの誇りや愛着につながるものづくり学習の推進

めざす姿

子どもが系統的にものづくりや科学を学ぶ機会があり、市民がものづくり活動を支え、大切にしている。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
ものづくりに興味のある児童生徒の割合 ①小学校5年生、②中学校2年生 【出典:豊田市の教育に関するアンケート調査】	①80.7% ②64.4% (2020年度)	↑
子どものものづくり学習を支える企業・団体等の数(年度末時点)	118団体 (2019年度)	↑

施策の背景

●かつての子どもたちの生活の中には、自然素材から遊び道具をつくったり、町工場で職人が作業する姿が見られたりと、日常の中にものづくりがあふれていました。しかし、現代社会においては、既製玩具の普及や製造業の自動化などにより、日常や遊びの中でものづくりを身近に感じたり、体験する機会が失われつつあります。

●本市では、2007年度に「ものづくり文化のまち構想」を策定し、ものづくりを人づくり、まちづくりという側面から捉え、ものづくりサポートセンター※1の開設、ものづくりサポーター※2の組織化、企業や大学、ものづくり団体等との連携など、本市の資源を生かしたものづくり学習事業を展開してきました。

●ものづくり教育プログラムの実施校が増加傾向にある一方、その教育プログラムを支えるものづくりサポーターの登録者数は横ばいになっているため、市内のものづくり企業やその退職者、大学等の資源を更に活用する必要があります。

●今後も、ものづくりを基盤に発展し続けるまちとして、貴重な人的資源を生かし、子どもがものづくり体験を通じて自ら考え、試行錯誤を繰り返す場や、高度なものづくりや科学の実践的な学びを通じて職業に対する意識を高める機会の充実が求められています。

用語解説

※1 ものづくりサポートセンター：主に小学校で実施するものづくり教育プログラムのための材料準備や試作品の作成、材料や道具の保管など、ものづくり学習を支える拠点施設

※2 ものづくりサポーター：ものづくり学習を支える人材。主に製造業退職者などの、ものづくりに深く携わった経験を持つ人が多くサポーターとして登録

施策の柱

柱① ものづくりや科学に興味・関心を高める機会の充実

概　要	幼少期からものづくりや科学への興味・関心を高め、創造性や感受性を育むため、学校や身近な場所でのものづくり学習の機会の充実を図ります。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	ものづくり学習の取組への参加者数(市実施分)	47,730人 (2019年度)	52,000人 (2024年度)
	「子どもたちが興味・関心を持ってものづくり活動に取り組んでいた」と回答した学校の割合	96.7% (2019年度)	毎年度95%以上 (2021～2024年度)

柱② 高度なものづくりや科学を学ぶ機会の充実

概　要	小学校高学年から中学生・高校生の課題発見・解決力、創造力の向上や職業に対する意識を醸成するため、企業や大学、ものづくり団体等と連携した高度で実践的なものづくり・科学の学習機会の充実を図ります。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	高度なものづくり・科学事業への参加者・応募者数(市実施分)	825人 (2019年度)	825人 (2024年度)
	企業や大学等と連携して実施したものづくり・科学学習の取組数	9件 (2019年度)	10件 (2024年度)

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
①	とよたものづくりフェスタ事業	子どもたちが様々なものづくりを体験・体感できるイベントを、ものづくり団体、大学、高校、中学校等と連携して開催
	ものづくり教育プログラム事業	小学生を対象に、学校カリキュラムの中で関連付けたものづくり体験を、ものづくりサポーターの支援により実施
②	クルマづくり究めるプロジェクト事業	子どもたちが、プロからクルマづくりを学び、挑戦する活動を自動車関連企業と連携して実施
	匠の技・職人の技に学ぶ ものづくりプロジェクト事業	和紙、鍛冶屋、竹細工といった伝統的な匠のものづくりや食品サンプルなどの現代の名工から学ぶ講座を実施
	科学技術教育推進事業	主に中学生・高校生を対象とし、企業、大学、関係団体等と連携したハイレベルのものづくり・科学講座等の開催や生徒の活躍を支援

クルマづくり究めるプロジェクト事業

ものづくり教育プログラム

科学技術教育推進事業

Ⅱ-1-(5) 高齢者が活躍できる環境の充実

めざす姿

高齢者が社会の中で能力を生かし、生きがいを感じて元気に活躍している。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
65歳以上の市民のうち、日ごろの生活の中で生きがいを感じている割合【出典:市民意識調査】	75.9%（2019年度）	↑
65歳以上の市民のうち、地域の活動やNPO・ボランティア活動などに参加している割合【出典:市民意識調査】	68.0%（2019年度）	↑
60歳以上の市民のうち、就業している割合【出典:市民意識調査】	35.4%（2019年度）	↑

施策の背景

●超高齢社会、人口減少社会が進行する中、本市においても、労働力不足や地域コミュニティの担い手不足、日常生活において支援を必要とする市民の増加など、様々な分野でマンパワーの不足が懸念され、これまで以上に元気な高齢者の活躍に期待が高まっています。ただし、一部では求職側と求人側とのニーズの乖離からうまく就労に繋がっていない現状もあります。

●「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正により、定年延長や定年制の廃止の傾向がより一層強まっていくことが見込まれています。65歳～70歳の世代が引き続き企業等で雇用されるため、シルバー人材センター※1の会員の新規獲得などがしにくい情勢となっていきます。

●豊田市高年大学を2018年にとよたシニアアカデミー※2へと改変し、シニア世代を対象とする学びや相談、情報提供等を通じて、生きがいづくりや様々な市民活動の実践を促し、社会や地域での活躍を支援し、高齢者が更に社会で活躍できる場を提供していきます。

●今後、高齢者の価値観が一層多様化する中、高齢者の豊かな経験や技能を生かし、生きがいを持って社会や地域で活躍してもらうため、社会環境の変化を踏まえた制度の見直しや、高齢者を社会や地域へつなぐ仕組みの充実が求められています。

用語解説

※1 シルバー人材センター：健康で働く意欲のある、原則60歳以上の方を対象に、多様な生きがい就労、就業機会の提供を進める公益法人。「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、区市町村ごとに設置

※2 とよたシニアアカデミー：シニア世代を対象とする学び、相談、情報提供等の事業を通じて、生きがいづくりや様々な市民活動の実践を促すことにより、シニア世代の社会や地域での活躍を支援。「通年コース」「専門コース」「はじめの一歩講座」の3つのコースがある

施策の柱

柱① 高齢者の社会や地域での活躍支援

概　要	市民活動や生きがいづくりを促進するため、学び、相談、情報提供などの場の充実や新たな活動者の発掘を進めます。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	シニアアカデミー「通年コース」受講者数	97人（2019年度）	108人（36人×3コース）（2024年度）
	シニアアカデミー「専門コース」受講者数	42人（2019年度）	40人（20人×2コース）（2024年度）
	シニアアカデミー「はじめの一歩講座」受講者数	155人（2019年度）	180人（15人×12回）（2024年度）

柱② 高齢者への多様な就業機会の提供

概　要	新たな就業開拓・創出のため、民間等多様な主体との連携や魅力発信を行い、新規入会者獲得や新規事業の拡大、働き方のコーディネートをめざします。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	シルバー人材センターにおける業務受注件数	7,482件（2019年度）	10,000件（2024年度）
	シルバー人材センターにおける就業延べ人員数	197,929人（2019年度）	222,000人（2024年度）
	セカンドライフ＆キャリア支援事業（エスプレッソ）への参加者数（4年累計）	——	200人（2021～2024年度）

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
①	（再掲）高齢者の活躍支援事業	高齢者の市民活動や生きがいづくりを促進するための学び、相談、情報提供等の支援を実施
②	（再掲）シルバー人材センター就業創出事業	社会環境の変化や多様化する高齢者の就労ニーズに対応するため、労働者派遣や生活支援サービスなどの就業機会を創出
	（再掲）就労支援事業	若年者、中高年齢者、女性、定住外国人などに対する、スキルアップ支援やマッチングを実施

Ⅱ-1-(6) 女性が活躍できる環境の充実

めざす姿

ワーク・ライフ・バランスが浸透し、仕事や子育て・介護の両立ができている市民が増え、女性が多様な活躍をしている。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
0歳～3歳児を持つ女性の就業継続者の割合【出典：男女共同参画社会に関する意識調査】	50.7%（2018年度）	↑
「女性が活躍できる環境が整っているまち」として満足している市民の割合【出典：市民意識調査】	30.6%（2019年度）	↑

施策の背景

●近年、社会の持続性の確保等に向けた女性活躍の期待が全国的に高まっています。
●2018年度に実施した「豊田市男女共同参画社会に関する市民意識調査」の結果、男女の平等観について「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、前回調査に比べて増加しており、家庭生活・職場・地域社会などの男女の在り方は、まだ不平等な状況です。
●また、社会や地域の活力を生み出すため、就労や地域活動に関心を持っていない女性に対し、ライフプランやキャリアプラン形成を支援することで、希望に沿った就労や地域活動などの活躍の機会につなげることが重要です。
●そのため、今後も性別に関わらず誰もが働きやすい事業所を増やすため、市内の事業所が男性中心型労働慣行を見直し、女性の就業継続、再就労を更に推進することが求められます。
●本市においては、2018年度に「女性しごとテラスカプチーノ」の設置や、2019年度に「クローバープラン（第4次とよた男女共同参画プラン）※1」の策定などを行っていますが、引き続き男女共同参画社会の実現に向けた意識の醸成を図ることが必要です。

用語解説
※1 クローバープラン（第4次とよた男女共同参画プラン）：社会のあらゆる分野において、性別に関わりなく、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を実現するため定めた計画

施策の柱

柱① ワーク・ライフ・バランスの推進

概　要	女性の活躍の場を広げるため、働く女性の仕事と家事、育児、介護等との両立を図るだけでなく、男性がそれらへ参画できるように、企業に対して理解促進のための取組を行います。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	豊田市ワーク・ライフ・バランスキャンペーン賛同事業所数	58事業所（2019年度）	毎年度80事業所以上（2021～2024年度）
	ワーク・ライフ・バランス推進のための市民向け啓発イベント	1回（2019年度）	3回（2024年度）
	市が主催する啓発セミナー等への参加者数（4年累計）	―	600人（2021～2024年度）

柱② 女性の就労・活動意識確立の支援強化

概　要	女性が自らの能力を生かした活躍を促進するために、起業などの多様な働き方や地域活動・社会貢献活動などについての情報提供や相談を行い、具体的な実践へと導く仕組みを構築します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	女性の就労等に向けた支援の取組への参加者数	282人（2019年度）	500人（2024年度）
	女性の活躍を支援する取組が役立ったと感じた参加者の割合	99%（2019年度）	98%以上（2024年度）

柱③ 若者の男女共同参画への理解促進に向けた取組の強化

概　要	若者の性別役割意識によらないキャリアプランの形成を促すため、学生を対象として男女共同参画について学ぶ機会を提供します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	教育機関等との男女共同参画の理解促進のための事業数	4件（2019年度）	6件（2024年度）

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
①	(再掲)働き方改革推進事業	働き方改革への取組気運の醸成及び取組の推進を図るため、優良事業所表彰や、専門家派遣、セミナー開催等を実施
②	女性のライフプラン・キャリア形成支援事業	結婚や出産を機に活動していない女性の就労意欲や市民活動への参画意識を醸成するための相談・セミナー・交流会を開催
③	子ども若者啓発事業	若者の固定的性別役割分担意識によらないキャリアプラン形成を支援

離職中女性の再活動に向けたマインドアップセミナー「Coco+」

ワーク・ライフ・バランスキャンペーン街頭活動

高校生が考える「将来のワーク・ライフ・バランス促進」動画制作講座

Ⅱ-2-（1） スポーツ資源を生かした活力ある社会の実現

めざす姿

様々な世代が、スポーツを通じて楽しく健康で生き生きと活躍しており、まちの活性化につながっている。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
1日60分以上運動をする小学生 ①男子（小学校5年生）、②女子（小学校5年生） 【出典：全国体力、運動能力、運動習慣等調査】	①49.0% ②28.3% （2019年度）	↑
週1回以上のスポーツをする成人 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	55.7% （2020年度）	↑
過去1年間にスポーツを観戦した市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	29.1% （2020年度）	↑
過去1年間にスポーツの指導やボランティアなど スポーツイベントや教室の運営に参加した市民の割合 【出典：豊田市の教育に関するアンケート調査】	5.2% （2020年度）	↑

施策の背景

●2015年度にスポーツ庁が設立され、スポーツ行政は急激に変化しており、特にスポーツの産業化は著しく進展しています。

●本市は、世界に誇れるスポーツ施設や地元チーム、多くのトップアスリートが在籍する企業や大学を有するなど、多様なスポーツ資源※1に恵まれています。

●また、豊田スタジアムやスカイホール豊田等の施設では、多くの国際大会、全国大会等が開催され、多くの来場者が訪れているとともに、今後もアジア競技大会を始めとした各種大規模大会が予定されています。

●一方で、１日60分以上運動する小学生の割合が減少傾向にあることや、体力・運動能力調査で全国平均値以上の項目が少ないことなどから、子どもの体力低下が懸念されるとともに、70代以上のスポーツ実施率も全国平均より低い状況にあり、地域ぐるみでのスポーツ推進が必要です。

●また、2019年度にラグビーワールドカップ2019™が開催され、多くの市民ボランティアが大会運営を支え、活躍しました。そこで得られたスポーツ推進の風土やレガシーを引き継ぎ、発展させていく必要があります。

施策の柱

柱① スポーツを「する」機会の拡充

概　要	子どもから高齢者まで、スポーツを「する」ことができるよう、様々な世代が志向に応じて参加できるスポーツ教室等の機会を提供するとともに、安全・安心にスポーツ施設を利用できる環境整備を行います。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	地域スポーツクラブやスポーツ推進委員が実施する教室数	273教室 （2019年度）	300教室 （2024年度）
	地域スポーツクラブの会員数	6,105人 （2019年度）	6,700人 （2024年度）

柱② スポーツを「楽しむ」風土の醸成

概　要	市内のスポーツチームや本市ゆかりのトップアスリートと身近に触れ合う機会を充実し、応援する気運を醸成するとともに、スポーツツーリズムを推進し、来訪者に対するおもてなし事業等を実施します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	トップスポーツチームやわがまちアスリートの情報発信を行った回数	26回 （2019年度）	毎年度30回 （2021～2024年度）
	Jリーグ開催試合　年間入場者数	520,967人 （2019シーズン）	60万人 （2024シーズン）

用語解説
※1　スポーツ資源：施設、人材、プログラム、情報、機会など、スポーツに関する全ての資源

柱③ スポーツを「支える」体制強化と人材の育成・活用

概　要	企業・大学等と連携したスポーツを「支える」ため、体制強化や指導者などの人材育成・活用を推進するとともに、スポーツボランティアなどを通じて多様な主体がスポーツを通じて活躍できる仕組みを構築します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	スポーツボランティアとよたの登録人数	415人（2020年度：設立時点）	1,000人（2024年度）
	企業・大学等と市が共催するスポーツ関連事業数	15事業（2019年度）	20事業（2024年度）

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
①	（再掲）地域スポーツ支援事業	地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の活動を様々な点から支援することで、身近な地域でのスポーツ機会を創出
	（仮称）松平地域体育館等整備事業	スポーツの振興や健康増進を図るため、市民が気軽に利用できる体育館及び多目的広場を整備
②	トップアスリート・スポーツチーム応援事業	市民のスポーツへの関心を増大させ、市への愛着や誇りを高めるため、本市ゆかりのトップスポーツチームやアスリートを応援
	Jリーグホームタウン推進事業	2021シーズンから20試合程度に増加する見込みの、豊田スタジアムでの名古屋グランパスのホーム公式戦開催に合わせ、来場者を取り込んだ取組や応援気運を盛り上げる自主的な取組に関する支援・調整を実施
	豊田スタジアム長寿命化修繕事業	大規模スポーツイベントの観戦等を楽しむ環境を継続的に提供し、集客力の維持・向上を図るために、施設の長寿命化修繕を実施
③	企業・大学と連携したスポーツ支援体制の構築	企業・大学と連携したスポーツ教室等を継続して開催しながら、企業・大学の優れた指導者や環境を活用できる仕組みを構築
	スポーツボランティアの活動促進事業	スポーツボランティアとよたの事務局を立ち上げ、ボランティアによるおもてなし事業を実施

地域スポーツの推進支援

名古屋グランパスホームタウン事業（パブリックビューイング開催）

スポボラとよた

Ⅱ-3-（1） 歴史や文化財の継承と魅力の発信

めざす姿

本市の歴史や文化財の魅力が広く市民等に共有・共感され、郷土愛が育まれている。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
主要文化財施設の入館者数	159,944人（2019年度）	↑
郷土の歴史・文化に誇りや愛着を持っている市民の割合【出典：市民意識調査】	44.2%（2019年度）	↑

施策の背景

●2005年4月の市町村合併により市域が拡大した本市は、それぞれの地域において培われてきた歴史と文化財があります。

●2019年の「文化財保護法」の改正により、歴史・文化財をまちづくりに生かし、地域社会全体で継承していくために、計画的な保存活用の促進や地方文化財保護行政の推進力強化を図ることとされました。

●本市においては、2018年5月に文化財の保存と活用を総合的に進めるための歴史文化基本構想を策定しました。

●一方で、歴史・文化財の保存・活用については、担い手の不足等から従来の仕組みでは持続的な継承が困難であり、新たな仕組みづくりが求められています。また、市民の歴史や文化への愛着は高まりつつあるものの、地域や世代の格差が大きい現状があります。

●今後は、これまで以上に市民・地域など多様な主体との共働による歴史・文化財の保存・活用の推進や、拠点となる施設の整備と既存施設との連携強化が必要です。

●中長期的な視点で効率的な施設管理・運営などの展望を持ち、面的・総合的な取組を展開していく必要があります。

施策の柱

柱① 歴史・文化財の継承・魅力発信のための基盤・機会の充実

概　要	多様な歴史・文化財の価値や魅力を共有し、未来へ継承するため、歴史・文化財に触れ、体感できる基盤や機会の充実を図ります。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	市が主催するイベント（講座・講演会等）への延べ参加者数	64,919人（2019年度）	65,000人（2024年度）

柱② 市民力・地域力を生かした歴史・文化財の継承の促進

概　要	次代を担う子どもたちに歴史・文化財を継承するため、市民や学校との連携を強化します。また、市民が歴史・文化財を自ら学び、市民や来訪者に伝える活動を促進します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	市が主催するイベント（講座・講演会等）への市民ボランティア等の延べ参画者数	909人（2019年度）	1,500人（2024年度）
	学校等と郷土資料館を始めとする文化財施設が連携・協力し、子どもたちが学びを深めていくための取組（博学連携事業）への参加者数	18,146人（2019年度）	20,000人（2024年度）

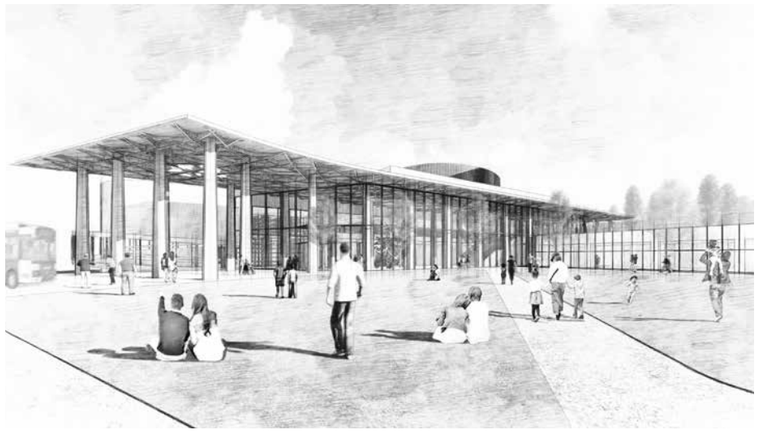
柱③ 歴史的な町並みや史跡等を生かしたまちづくり

概　要	歴史的な価値のある重要伝統的建造物群保存地区の町並み等を地域資源として生かし、市民と共働で保存・活用することで、まちのにぎわいを創出します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	足助中馬館の延べ来館者数	9,698人（2019年度）	12,000人（2024年度）

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
①	（再掲）博物館整備事業	歴史・文化や自然など本市の持つ価値や魅力を守り、伝え、継承するための拠点である博物館を整備
①②	郷土学習推進事業	市民や団体、地域と共働により、郷土の歴史・文化財を子どもたちに継承する取組を学校と連携して実施
③	足助歴史的町並み保存整備事業	歴史的町並みを保存するため、建造物の修理・修景、防災設備の整備や国の重要文化財旧鈴木家住宅の修理・復元を実施

郷土学習スクールサポート



博物館イメージ図

足助の歴史的町並み

Ⅱ-3-(2) 文化芸術を生かしたまちの魅力づくりの推進

めざす姿

様々な文化芸術活動が活発に行われ、多くの市民が文化芸術に親しんでいる。

まちの状態指標

指標名	基準値	めざす方向
文化芸術に興味を持っている市民の割合 【出典:豊田市の教育に関するアンケート調査】	60.9% (2020年度)	↑
文化芸術の鑑賞・見学を行っている市民の割合 【出典:豊田市の教育に関するアンケート調査】	69.6% (2020年度)	↑
文化芸術活動(鑑賞・見学を除く)を行っている市民の割合 【出典:豊田市の教育に関するアンケート調査】	27.6% (2020年度)	↑

施策の背景

●2005年4月の市町村合併により市域が拡大した本市は、中心市街地には、美術館、コンサートホール・能楽堂、中央図書館など充実した文化施設を備え、山村地域等には農村舞台や地芝居など多様な文化を有しています。

●2017年6月に成立した「文化芸術基本法※1」の理念において、今後の文化芸術に関する施策の推進に当たり、学校や地域等における活動の連携や、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等の関連分野との有機的な連携が求められています。

●また、2018年3月に制定された「愛知県文化芸術振興条例※2」では、市町村連携の支援、連携・協働による文化芸術活動の場づくり等、文化芸術による自治体や文化芸術団体間の連携強化が盛り込まれました。

●本市においては、多くの市民が文化芸術に親しみ、主体的に活動を続けていく生涯活躍社会の実現に向け、2018年3月に「第2次豊田市文化芸術振興計画※3」を策定し、人づくり、仕組みづくり、基盤づくりの3つの視点から、課題と対応方針をまとめ、各種取組を進めています。

用語解説

※1 文化芸術基本法：文化芸術に関する施策についての基本理念を明らかにしてその方向性を示し、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために制定された法律

※2 愛知県文化芸術振興条例：国の文化芸術基本法制定を受け、文化芸術を担う人材の育成や、県下の地域文化発掘に取り組むために愛知県が制定した条例

※3 第2次豊田市文化芸術振興計画：多くの市民が文化芸術に親しみ、主体的に活動を続けていく生涯活躍社会の実現を目的として豊田市が策定した計画

●今後は、文化事業の企画・運営・サポートができる人材を発掘・育成するための長期的なサポート体制の確立が必要です。

●また、「豊田市文化ゾーン基本構想」を推進するため、(仮称)豊田市博物館の開館を見据え、ゾーン内外の回遊性の向上や交通ネットワークの形成などの基盤整備が必要です。

施策の柱

柱① 文化芸術に触れる機会の充実

概　要	市民が文化芸術に触れる機会の充実を図るため、鑑賞・見学・創作・学習等の視点から様々な活動を推進します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	文化芸術鑑賞・体験機会への延べ参加者数 ①コンサートホール・能楽堂(市主催分)	37,126人 (2019年度)	毎年度30,000人以上 (2021～2024年度)
	文化芸術鑑賞・体験機会への延べ参加者数 ②美術館(直近4年度の平均、市主催分)	378,170人 (～2019年度)	200,000人 (～2024年度)
	おいでんアート体験フェアの来場者数	11,700人 (2019年度)	毎年度7,000人以上 (2021～2024年度)

柱② 文化芸術活動を担う人材の育成

概　要	文化芸術の関心を高めたり、出会うきっかけを増やすため、活動を担う人材、支える人材を育成します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	とよたデカスプロジェクトの応募件数	27件 (2019年度)	毎年度20件以上 (2021～2024年度)
	市民公募によるアートイベントへの参加組数	50組 (2019年度)	毎年度20組以上 (2021～2024年度)

柱③ 文化施設の機能・価値の向上

概　要	市民が文化芸術に触れる基盤となる文化施設の機能や価値を高めるため、時代に即した施設のサービス向上、効率化を図るとともに、中心市街地への回遊を促進します。		
成果指標	指標名	基準値	目標値
	主要文化施設の延べ利用者数 ①市民文化会館	**302,981**人 （2019年度）	毎年度**350,000**人以上 （2021～2024年度）
	主要文化施設の延べ利用者数 ②コンサートホール・能楽堂	**88,353**人 （2019年度）	毎年度**100,000**人以上 （2021～2024年度）
	主要文化施設の延べ利用者数 ③美術館（直近4年度の平均）	**500,730**人 （～2019年度）	**350,000**人 （～2024年度）
	主要文化施設の延べ利用者数 ④図書館	**898,863**人 （2019年度）	**1,000,000**人 （2024年度）
	博物館開館までに必要な 文化ゾーン内の基盤整備	―	**整備完了** （2023年度）

〈主な実践計画事業〉

柱	事業名	事業概要
②	市民によるアートプロジェクト推進事業	市民主体の文化芸術活動・発表の場を創出し、文化芸術に関わる人材の発掘・育成を促進
③	文化ゾーン基盤整備事業	文化ゾーン基本構想を推進するため、文化芸術の発信拠点として必要な機能を整備
	市民文化会館大規模改修事業	市民文化会館の安心安全な施設供用を維持するため、適切な修繕を行うとともに文化創造拠点としての機能を整備
	中央図書館大規模改修事業	いつまでも安心して快適に利用できるよう、利用開始から20年以上経過した中央図書館の改修を実施

コンサートホール

市民公募によるアートイベント

美術館